

# 沖縄から世界の架け橋へ

## ～九州菱肥会実務者研修会

去る1月22日～24日、33回目を向かえた九州菱肥会実務者研修会は、寒さ厳しい九州を離れ沖縄の地で開催された。参加者は会員4社10名、賛助会員2社、事務局の総勢14名の参加を得て盛会に催された。

研修先はTVや紙面にも取り上げられている全日本空輸が那覇空港に設けた国際物流基地「沖縄貨物ハブ」で2009年の稼働から貨物専用機をアジアの主要都市へ深夜運航している。沖縄といえば琉球王朝時代に海上交易で栄えた「世界の架け橋」を意味する万国津梁（しんりょう）の地であり、地元のみならず全国の企業や県職員が度々視察に訪れている。

「沖縄貨物ハブ」は24時間離発着可能な立地を活かし、例えば全国の農産物を夕方から夜に地方空港を出発させ羽田空港にて集約、羽田空港を24時に出発し沖縄空港に2時50分着、ピッキング・通関作業等を終え沖縄を5時25分出発しバンコクへ8時10分に荷を着けることが可能となっている。年内には広州、シンガポール便の運航を増やし海外8都市、国内4都市を結ぶ物流ネットワークが拡充される予定だ。アジア域内の輸送に強みを持ち、日本 アジア間のみならずアジア アジア間の輸送にも対応することができる。

農産物はまだ扱い数量が少ないものの生鮮野菜や果物等足の速いものが鮮度を保持させたまま東アジア周辺の諸外国に運べる利点がある。現在、沖縄県の積荷が50%を超えるものについてはそれ以上の荷物について沖縄県の運賃助成が適用され安価に輸送できるようになっており今後発展する可能性を秘めている。

研修会は貨物機の発着やピッキング作業をじかに見るために深夜00:45～2:45に行われた。ハードなスケジュールながらも会員各位はTPPを見据えた日本の農業の行く末を占う同社の取り組みについて真剣な面持ちで拝聴していた。

### 那覇空港を基点に日本とアジアの主要都市を結ぶ新・航空ネットワーク

「那覇空港を基点に、貨物専用機（B767-F）を主要8都市へ深夜運航（順次拡大予定）」が新しい。

「羽田経由で日本国内の主要都市への接続もスピーディ」が新しい。

「アジアの主要都市から主要都市へ、アジア域内間の接続もスピーディ」が新しい。

詳しくは<http://www.ana.co.jp/cargo/ja/int/okinawa/>をご覧ください。

研修会にご協力頂いた、全日本空輸（株）の皆様、同社貨物事業室沖縄販売部の角田健文様には紙面をかりて御礼申し上げます。



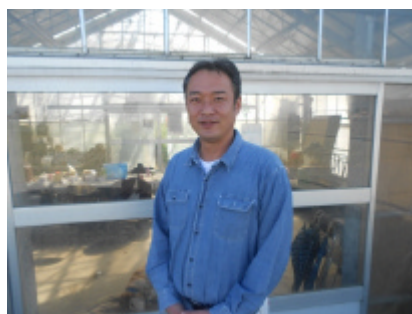
## 現場探訪 品種の特性と自然条件を生かしたこだわり栽培

佐賀県 光樹とまと部会

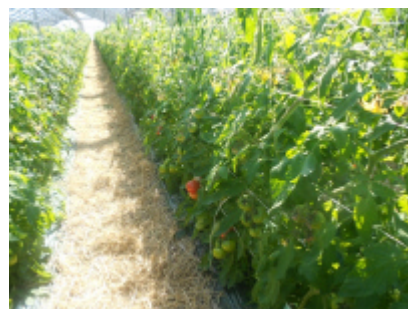
秋春作トマトの加温栽培は全国的に生産が盛んであり、土耕や水耕栽培等色んな栽培手法があるが、温度管理と肥培・防除管理が重要でとても腕のいる作物のひとつとなっている。

トマトといえど世の中には多種あり、我が国での大玉系統の主流は桃太郎系統が席卷している状況だ。その中で、あえて違う品種にこだわって差別化を図るグループがいる。佐賀県川副町の光樹とまと部会だ。光樹とまとは、サカタのタネ社育成の旨みが強い「サンロード」を栽培し、出荷基準もグループ内で自ら厳しく律し品位を保っている。マスコミで良く取り上げられており、東京青果等でも評価が高い。その光樹とまとを栽培する副部会長の古賀信一郎氏を訪ねた。

通常、秋春作の長期取り加温栽培では大玉系のトマトで10a当たりの目標収穫量として10トン以上取りたいところだが、この品種は頑張っても7~8トン止まりだという。果形が崩れやすく病害虫に弱いのがこの品種の難点で、作り手が少なくなっており、希少な品種となっている。また、同品種を他地域で栽培してもこの川副で育ったサンロードのように旨みが出ないようで、これが逆に強みとなっているとか。この旨みが光樹とまの特長だ。現在、トマトジュースも商品化されている。旨みと酸味のバランスがとても良く、美味しい仕上がりとなっている。量を出して生産費を下げるのが王道ではあるが、自然条件を生かしてブランド化するのもこれからの農業では大切なビジネスモデルであろう。光樹とまと部会の益々の発展をご祈念申し上げます。



光樹とまと部会 古賀副部長



栽培品種：「サンロード」

## 梅は咲いたか桜はまだかいな

新春早々、寒波襲来と思えば1月末は早春を思わせるポカポカ陽気。梅の名所で有名な福岡県の大宰府天満宮を訪ねた。境内の数ある梅の中でも天満宮内本宮境内向かって右に育つ御神木「飛梅」は、菅原道真公が都を立つとき庭前の梅に別れを惜しまれて詠まれた句に、梅が慕って天神様のあとを追って一夜にして飛来したという伝説の梅だ。天満宮の中でも一番初めに咲く不思議な梅として知られ、九州地区ではテレビで開花が報告されるほど福岡っ子にとっては馴染みの深い梅となっている。

昨年は1月20日に1輪開花したのだが、訪問した1月末は残念ながらあと二息？で開花を迎える状況であった。やはり昨年より寒さが厳しかったために梅も寒い冬を耐え忍んでいるのであろうか。今年の梅の見頃は2月20日頃となっており境内を多種多様な梅の花が彩ることであろう。また、民間気象会社から早くも桜の開花予想が発表された。今年の桜は平年並みか早く咲く傾向にあると言われているが、九州から関東にかけて記録的に早い開花となった昨年と比較すれば、遅咲きの傾向にあるという。ただし、西日本は今年の冬の寒さが厳しかったため、桜の花芽が早く目覚めて生長開始していると見られ、西日本は早くなる見込みがあるそうだ。梅が咲けば田植えの準備が本格化し農作業も忙しくなる。春が待ち遠しい限りだ。



先週末、東日本の広い地域で大雪になりました。東京は45年振りに27cmの積雪となり、道路のあちらこちらで、かまくらを見かける程でした。交通と物流の大混乱はさておき、東京の子供達にとって、かまくらが作れる体験は、いい思い出だったかもしれませんね。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>